

【資料1】令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金

自治体広域連携によるローカルベンチャー拡大推進事業(令和3～7年度) ソフト事業							新宿泊交流施設整備事業 ハード事業 (R4.5実施事業、KPIはR6より発生)
事業 の 名 称	広域自治体共通プログラム(協議会への拠出金)	関係人口プラットフォーム構築事業 (むらまると研究所への委託)	オープンデータプラットフォーム構築事業 (むらまると研究所への委託)	TAKIBIプログラム(ビジネスアイデア・プラン開発事業) (株式会社エーゼログループへの委託)	新事業創出加速化支援事業(株式会社エーゼログループへの委託)	百年の森林留学プログラム事業	
内容	本分野に実績と知見を持つNPO法人ETIC.を事務局としたローカルベンチャー推進協議会で、全国の志を同じくする6自治体が連携し、各自治体から事務局への拠出金をもとに、「地域共創ラボ」を構築し企業版関係人口の拡大に取り組む。	村外企業や研究者、個人等が、地域への理解・課題解決への参画等を通じて、継続的に西栗倉村に関わる「関係人口」を維持・増加させるための「む1a」整備し、村外からの来訪者にとって課題である「活動拠点」と「移動インフラ」の改善に向け取り組む。	村における既存データのオープン化の促進と新規データ取得の方針の策定によるデータの利活用環境を整備する。また、村内におけるオープンデータ化やデータ活用等に関わるコミュニティの形成に向けた場を整備する。	スケールする新事業の創出を目的とし、地域課題を明らかにした上で、解決の手段となる域外のビジネスモデルを調査する。その上で、村内関係者や外部人材を巻き込んだワークショップを実施し、地域の願いと重ねながらビジネスアイデアの創出を行う。また創出されたアイデアに対して外部人材をコーディネートし、ブラッシュアップを行う。仮説検証を重ね、実現及び成長可能性の高いビジネスプラン創出を目指す。	「事業プランのブラッシュアップが可能な人材」にターゲットを絞り込み、「スケールするビジネスアイデアおよびビジネスプランを創出する一員」として位置づけ、新たに関係性を構築するための情報発信を行う。また、ビジネス創出に資する人材やビジネスプランの担い手となる人材等との接点確保を意図したPR活動を行う。	本年度より通年の留学プログラムを実施し、運営を行いながら課題の掘り起こしやプログラムを改善する。また、より広域で募集を実施するためのネットワークの拡充を図る。同時に教員研修の受け入れを開始し、関係人口としての外部人材の掘り起こしも行う。	これから村で仕事を始める移住者を対象とした、ユニット型の住宅を建設する。この住宅は西栗倉村産材(FSC認証材)を活用し、短期間で建設可能な「組み合わせ式建築工法」の実証を目的とし、今後は、住宅の温度や湿度の情報を取得しながら住環境の調査を行い、住みやすい住宅の開発を進める。
事業費	7,700千円	16,620千円	8,000千円	49,500千円	27,500千円	1,380千円	0千円 (R4.5 事業費 15億円)
効果	・広域連携自治体サミットを開催(宮崎県日南市) ・自治体合宿開催(愛媛県久万高原町) ・広域連携自治体総会2回開催(オンライン)	・企業及びパートナーの研究室利用7件 ・むらの工作室のこども利用者数のべ、269人 ・ものづくり体験ワークショップ59回 ・むらの調理室利用58件 ・視察受入れ19件 ・ローカルモビリティ・サミット開催 ・空き家相談窓口におけるマッチング数2件	・オープンデータプラットフォーム活用事業者数6社。 ・データ利活用を促進するイベント4回 ・村民及び村内企業のデータ利活用支援5件	・地域内事業者が、雇用を生み出す規模で自走可能な新事業アイデアを検討する「TAKIBI審査会」を開催。 ・上記審査会内で提案された事業(7件)を有識者による審査会で6件採択し、地域外プロデューサーの派遣によりビジネス開発を支援。 ・TAKIBIプログラム全体のフレームを検討。	・TAKIBIプログラムの進捗を周知する「TAKIBI通信」記事を2号作成、配布。 ・関係性構築のための情報発信記事を5件取材・配信。 ・Uターン人材へフックさせるための村内求人公告を帰省時期に合わせて2回発信。	・体験プログラムの実施 ・実施結果を分析しプログラムの再構築の検討を実施。 ・留学生を募集する取組だけでなく村にまず興味を持ってもらい留学・移住そして村民への社会教育の機会創出につながるよう整備留学拠点を活用した合宿を民間団体と共催し実施。大人子ども含め総勢25名が参画。(うち村外小学生4名、高校生6名、大学生1名)	昭和40年代に建設された国民宿舎跡地に、「百年の森林」を体現できる宿泊交流施設を整備。関係人口、観光需要の創出を通じ、持続可能な地域経済の活性化を図る。

令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金に関連したKPI（重要業績評価指標）の進捗状況

【資料2】

地域における安定的な雇用創出、地方への新しい人の流れ、まちの活性化など、地方創生の深化の実現に向け、地方公共団体が地方版総合戦略に基づき実施する取組を国が支援

事業名	事業内容	R6事業費	事業期間	重要業績評価指標(KPI)		現況値(R2)	年度別状況					
							R3	R4	R5	R6	R7	増加累計
資料1-1 広域連携事業  自治体広域連携によるローカルベンチャー拡大推進事業 ～官民共同・地域間連携による企業版関係人口創出・右腕人材マッチングプラットフォームの開発～	企業版関係人口の創出と右腕人材マッチングプラットフォームを開発する自治体広域連携によるローカルベンチャー拡大推進事業を実施する。事業内容は、第1期での事業実施を踏まえ、企業版関係人口の創出とマッチングと各地域での課題解決を推進する人材を育成・確保する事業を広域自治体連携の共通プログラムとして実施する。各地域ではそれぞれの地域性や地域課題に合わせて独自プログラムを開発・実施し、共通プログラムでマッチングした企業版関係人口との協働を推進し、ローカルベンチャーの自立化や地域課題の解決等を図る。	114,700 千円	R3～ R7	ローカルベンチャーによる売上規模(増加数)	目標値(千円)	1,838,897	100,000	177,900	222,400	273,600	326,000	1,099,900
					実績値(千円)		0	0	222,186	226,525		448,711
				都市部企業との協働プロジェクト件数	目標値(件)	0	5	3	5	3	5	21
					実績値(件)		18	6	6	9		39
				課題解決型人材の増加数	目標値(人)	0	40	40	40	20	20	160
					実績値(人)		35	40	52	20		147
				事業ノウハウ移転地域数	目標値(地域)	0	6	14	14	14	14	62
					実績値(地域)		6	14	32	14		66

事業名	事業内容	R6事業費	事業期間	重要業績評価指標(KPI)		現況値(R2)	年度別状況					
							R6	R7	R8			累計
宿泊交流施設整備事業	昭和40年代に建設された国民宿舎跡地に、「百年の森林」を体現できる宿泊交流施設を整備。関係人口、観光需要の創出を通じ、持続可能な地域経済の活性化を図る。  本事業のKPIは、整備後に発生するため	0 (R4.5 建設事業費 15億円)	R4～ R5	本事業で整備する施設及び既存主要観光施設(宿泊交流施設・道の駅・日帰り温泉施設)の売上額	目標値(千円)	157,478	70,000	100,000	150,000			320,000
					実績値(千円)		64,638				64,638	
				宿泊交流施設の延べ利用者数	目標値(件)	0	10,000	15,000	20,000			45,000
					実績値(件)		1,144				1,144	
				村内地域課題解決等のビジネス・プロジェクトの創出	目標値(地域)	0	2	3	3			8
					実績値(地域)		6				6	

【資料3】第6次西粟倉村総合振興計画 指標進捗一覧

						基準値	中間目標値	最終目標値	実績値	実績値	実績値	実績値
施策	担当課①	担当課②	指標番号	指標名	単位	R2	R7	R12	R3	R4	R5	R6
1-1 健康に過ごし続けるための備え	保健福祉課		1	国民健康保険の特定健診受診率	%	47.0	56.0	65.0	44.0	50.0	63.0	48.6
1-1 健康に過ごし続けるための備え	保健福祉課		2	がん検診受診率 胃がん	%	27.0	32.0	37.0	22.0	15.2	11.9	10.6
1-1 健康に過ごし続けるための備え	保健福祉課		3	がん検診受診率 肺がん	%	33.0	38.0	43.0	31.0	25.3	18.6	16.9
1-1 健康に過ごし続けるための備え	保健福祉課		4	がん検診受診率 子宮がん	%	26.0	41.0	46.0	22.0	21.0	14.3	14.0
1-2 魅力的な子育て環境づくり	保健福祉課		5	乳幼児健康診査受診率 1歳6ヶ月児検診	%	100	100	100	80	100	100	100
1-2 魅力的な子育て環境づくり	保健福祉課		6	乳幼児健康診査受診率 3歳児検診	%	100	100	100	100	100	100	100
1-2 魅力的な子育て環境づくり	保健福祉課	教育委員会	7	保育環境や遊び場に対する不満足度	%	10.6	8.0	5.0	13.0	11.5	13.5	16.2
1-2 魅力的な子育て環境づくり	保健福祉課	教育委員会	8	子育てに対する地域の協力の不満足度	%	4.7	4.0	3.0	5.0	5.0	7.7	5.0
1-2 魅力的な子育て環境づくり	教育委員会		9	中高生と村の大人が協働して実施した活動数	回/年	1	2	3	1	5	6	6
1-3 誰もが住み続けられる環境づくり	保健福祉課		10	調整済み要介護認定率	以下	18	18	18	15.5	15.9	17.8	17.7
1-3 誰もが住み続けられる環境づくり	保健福祉課		11	福祉サービス(在宅福祉など)の状況の不満足度	%	4.6	4.0	3.0	7.9	8.1	6.1	7.7
1-3 誰もが住み続けられる環境づくり	保健福祉課		12	障がい者(児)への相談支援の年間実施回数	回/年	180	200	200	180	269	203	196
1-4 医療体制などの充実	保健福祉課		13	病院などの保険・医療・福祉の整備状況の不満足度	%	11.6	10.0	8.0	21.0	18.8	25.0	28.7
1-4 医療体制などの充実	保健福祉課		14	休日夜間の救急医療体制の不満足度	%	21.9	21.0	20.0	27.7	33.0	33.5	31.7
1-4 医療体制などの充実	保健福祉課		15	1人当たりの国民健康保険の医療費	千円	363	350	335	405	463	434	380
2-1 社会とつながるきっかけづくり	教育委員会		16	あわくら図書館の村民1人当たりの年間貸出冊数	冊/年	11.1	13.0	15.0	12.3	11.8	12.8	13.7
2-1 社会とつながるきっかけづくり	教育委員会		17	生涯学習講座(あわくら大学等)の年間実施回数	回/年	126	130	136	106	103	85	132
2-1 社会とつながるきっかけづくり	教育委員会		18	生涯学習等の成果を発表できる場の数	回/年	2	3	3	3	3	3	3
2-2 スポーツに出会う環境づくり	教育委員会		19	子どもが所属するスポーツ団体数	団体	9	11	12	6	7	10	10
2-2 スポーツに出会う環境づくり	教育委員会		20	スポーツ大会やスポーツ塾の参加者数	人	451	500	550	377	336	343	455
2-3 文化に触れ、継承する環境づくり	教育委員会		21	広報機会を増やし情報を知る機会を増やす	回/年	2	10	12	1	1	1	2
2-3 文化に触れ、継承する環境づくり	教育委員会		22	文化系サークルの団体数	団体	9	11	14	8	8	8	8
2-4 質の高い学校教育の推進	教育委員会		23	地域の人に参加した小中学校の活動及び授業数	回/年	29	36	45	38	45	144	75
2-4 質の高い学校教育の推進	教育委員会		24	教育環境(特色のある学校教育等)の不満足度	%	9	8	7	12.9	8.4	10.6	13.5
3-1 地域の農業を支える環境づくり	産業観光課		25	農作物の新たな担い手確保(累計)	人	1	2	3	1	1	1	2
3-1 地域の農業を支える環境づくり	産業観光課		26	早場米生産量	t/年	320	342	364	329	313	320	358
3-1 地域の農業を支える環境づくり	産業観光課		27	給食への地域農作物提供回数	回/年	113	142	170	120	140	194	169
3-2 林業の振興と森林の多様化と価値最大化	産業観光課		28	森林に関わるイベントや木育活動の実施件数	件	4	6	8	13	7	7	30
3-2 林業の振興と森林の多様化と価値最大化	産業観光課		29	年間木材搬出量	m³	10,750	12,500	13,000	8,887	8,007	11,148	9,974
3-2 林業の振興と森林の多様化と価値最大化	産業観光課		30	長期施業管理契約受託面積	ha	1,470	1,700	2,000	1,520	1,579	1,325	1,427
3-2 林業の振興と森林の多様化と価値最大化	産業観光課		31	森林サービス産業事業の新規創出件数(累計)	件	2	4	6	5	7	13	13
3-3 地域の光を魅せる取組推進	産業観光課		32	主要観光施設の年間観光客数	万人/年	10	15	20	10.0	10.0	8.0	7.5
3-3 地域の光を魅せる取組推進	産業観光課		33	村内の観光資源数	件	23	37	50	27	30	30	30
3-3 地域の光を魅せる取組推進	産業観光課		34	体験型ツアー、交流事業の企画件数	件	6	10	15	7	7	9	9
3-4 地域経済循環を生み出す商工業の推進	産業観光課		35	ローカルベンチャーによる売上額(年間)	億円/年	19.7	22.3	29.7	18.4	19.0	19.0	20.5
3-4 地域経済循環を生み出す商工業の推進	産業観光課		36	地域内での起業・新事業創出数(累計)	件	5	7	10	7	14	6	23
3-4 地域経済循環を生み出す商工業の推進	産業観光課		37	ローカルベンチャーの求人機会の数	回/年	1	2	3	2	2	2	2
施策	担当課①	担当課②	指標番号	指標名	単位	R2	R7	R12	R3	R4	R5	R6

施策	担当課①	担当課②	指標番号	指標名	単位	基準値	中間目標値	最終目標値	実績値	実績値	実績値	実績値
						R2	R7	R12	R3	R4	R5	R6
4-1 交通基盤の整備と持続可能な維持管理	建設課		38	幹線道路や生活道路の整備状況の満足度	%	65.3	67.0	69.0	64.2	72.2	66.5	65.5
4-1 交通基盤の整備と持続可能な維持管理	保健福祉課		39	福祉バスの利用者数	人	3,800	3,000	2,500	3,999	4,363	3,828	3,456
4-1 交通基盤の整備と持続可能な維持管理	総務企画課		40	鉄道やバスなどの公共交通の利便性の不満足度	%	34.2	30.0	20.0	41.6	37.1	37.4	42.4
4-2 長く住み続けることができる環境づくり	総務企画課		41	村の政策として確保した住宅数	戸	81	100	120	82	84	85	92
4-2 長く住み続けることができる環境づくり	総務企画課		42	U I ターン世帯の5年定着率	%	59.0	62.0	65.0	54.3	53.0	57.0	58.7
4-2 長く住み続けることができる環境づくり	総務企画課		43	村に住みたいと思う人の割合	%	59.9	70.0	80.0	50.5	54.6	46.0	48.9
4-3 空き家対策の推進	総務企画課		44	村内の空き家率	%	8.3	8.0	8.0	8.3	8.0	8.0	8.0
4-3 空き家対策の推進	総務企画課		45	対策（利活用、除却）を行った空き家数（累計）	件	32	40	50	38	41	43	48
4-4 ごみの減量化とリサイクルの推進	産業観光課		46	一人一日当たりごみ総排出量	g/人・日	680	610	550	649	649	660	629
4-4 ごみの減量化とリサイクルの推進	産業観光課		47	不法投棄の年間件数	件/年	8	4	0	5	1	1	2
4-4 ごみの減量化とリサイクルの推進	産業観光課		48	自然環境の保全状況の不満足度	%	6.7	6.0	5.5	9.9	11.8	13.9	6.9
4-4 ごみの減量化とリサイクルの推進	産業観光課		49	資源ごみ回収量	t/年	48	53	58	43	42	39	38
4-5 脱炭素化に向けた取組推進	産業観光課		50	村内の再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.8	50.0	70.0	45.5	54.9	57.0	55.0
4-5 脱炭素化に向けた取組推進	産業観光課		51	電気自動車導入台数（累計）	台	5	20	100	10	12	17	17
4-6 上下水道の持続可能な維持管理	建設課		52	水道施設・管路の更新率	%	4.4	7.5	10.0	4.4	4.8	4.8	4.8
4-6 上下水道の持続可能な維持管理	建設課		53	水洗化率	%	93.7	94.0	94.3	93.7	95.4	95.6	95.8
4-6 上下水道の持続可能な維持管理	建設課		54	上水道（簡易水道）の整備状況の満足度	%	78.1	79.0	80.0	76.5	84.7	79.7	81.1
4-7 地域の消防・防災力の向上	総務企画課		55	自主防災活動を行った組織数	組織/年	0	6	12	0	0	0	0
4-7 地域の消防・防災力の向上	総務企画課		56	消防・防災訓練実施回数	回/年	2	2	2	1	2	1	1
4-8 安心して暮らし続ける環境づくり	総務企画課		57	交通安全に関する広報（働きかけ）の実施回数	回	2	4	4	2	2	2	2
4-8 安心して暮らし続ける環境づくり	総務企画課		58	消費生活に関する広報（働きかけ）の実施回数	回	6	8	8	1	1	2	2
4-8 安心して暮らし続ける環境づくり	総務企画課	保健福祉課	59	村民向け相談窓口の設置回数	回	6	8	8	6	6	6	6
4-8 安心して暮らし続ける環境づくり	総務企画課		60	交通安全に関する高齢者や子ども達への働きかけの回数	回	0	2	4	0	0	1	0
5-1 あらゆる主体の参画・連携により地域を支える	総務企画課		61	地域づくり活動登録団体数	団体	3	6	9	3	3	3	0
5-2 持続可能な行政事務の実施	総務企画課		62	研修年間延べ参加者数	人	95	110	130	62	129	53	143
5-2 持続可能な行政事務の実施	総務企画課		63	村職員離職率（5年間）	%	18.0	10.0	5.0	17.1	20.9	25.6	37.0
5-3 持続可能な公共財管理と財政運営	総務企画課		64	経常収支比率	%	90.2	92.0	91.0	89.7	94.5	94.4	98.4
5-3 持続可能な公共財管理と財政運営	総務企画課		65	実質公債費比率	%	13.8	17.0	15.5	10.6	12.7	13.8	13.9
5-3 持続可能な公共財管理と財政運営	出納室		66	指定管理者制度の導入施設数（年間）	箇所	13	13	13	13	14	15	17
5-4 いつでもどこでもだれでもつながる	総務企画課		67	通信環境の不満足度	%	13.7	10.0	8.0	13.7	10.9	12.6	12.3
5-4 いつでもどこでもだれでもつながる	総務企画課		68	電子申請実施業務数（年間）	件	30	300	500	212	976	261	944
5-4 いつでもどこでもだれでもつながる	総務企画課		69	BPR実施業務数（年間）	件/年	0	2	2	0	0	0	0
5-5 あちらこちらで進む情報の共有化	総務企画課		70	審議会等の村民公募委員数（年間）	人	5	6	7	0	0	0	0
5-5 あちらこちらで進む情報の共有化	総務企画課		71	地区座談会の開催件数（年間）	回/年	0	6	12	0	0	12	1
5-5 あちらこちらで進む情報の共有化	総務企画課		72	オープンデータ公開件数（年間）	件	0	50	100	8	14	14	14
5-6 取り残されそうな領域をほっとかない	総務企画課		73	会議委員等における男女比率の公開件数（年間）	件	0	3	6	0	0	0	0
5-6 取り残されそうな領域をほっとかない	総務企画課	保健福祉課	74	普及啓発活動・広報の実施回数（年間）	回/年	2	4	6	2	2	2	2
施策	担当課①	担当課②	指標番号	指標名	単位	R2	R7	R12	R3	R4	R5	R6

# 第10回西粟倉村総合戦略有識者会議資料

## 西粟倉村第6次総合振興計画後期計画策定について

令和8年2月9日



# 1、前期計画の進捗

評価の区分について	
区分	状況
非常に良い	目標値より順調に進んでいる。かつ、実績値が良くなっている。
良い	目標値より良い結果が出ている。または、実績値が良くなっている。
横ばい	実績値が横ばいの状況。
要注意	実績値が悪くなっている項目がある。
要見直し	実績値が全体的に悪くなっている。

(指標の一覧とその進捗は参考資料をご確認下さい。)

# 前期計画の進捗①

## 保健・医療・福祉

施策	区分	状況
健康に過ごし続けるための備え	要見直し	国保特定健診受診率は計画当初より若干高くなっていますが、胃・肺・子宮がんの各がん検診受診率は継続して低下し、計画当初を下回っています。
医療体制などの充実	要見直し	病院などの整備状況や休日夜間の救急医療体制に対する不満足度が計画当初より高くなっています。
魅力的な子育て環境づくり	要注意	乳幼児健診受診率は100%と良好な一方、保育環境や遊び場、子育てへの地域の協力に対する不満足度が高くなっています。

## 教育・文化

施策	区分	状況
社会とつながるきっかけづくり	非常に良い	あわくら図書館の年間貸出冊数、生涯学習講座の実施回数、および成果発表の場が目標を上回る良好な進捗です。
質の高い学校教育の推進	要注意	地域の人に参加する小中学校活動は良好ですが、教育環境に対する不満足度が悪化傾向にあります。
文化に触れ、継承する環境づくり	要注意	文化系サークルの団体数が計画当初を下回った形で維持しています。

## 産業

施策	区分	状況
地域の農業を支える環境づくり	非常に良い	農作物の新たな担い手確保、早場米生産量、給食への地域農作物提供回数がいずれも目標を上回って推移しています。
林業の振興と森林の多様化と価値最大化	要注意	森林イベントや木育活動は順調ですが、年間木材搬出量と長期施業管理契約受託面積は計画当初を下回っています。
地域の光を魅せる取組推進	要見直し	主要観光施設の年間観光客数は減少しており、計画当初を大きく下回っています。

# 前期計画の進捗②

## 生活環境・基盤整備

施策	区分	状況
交通基盤の整備と持続可能な維持管理	要見直し	公共交通の利便性に対する不満足度、幹線道路や生活道路の整備状況の満足度ともにやや悪化傾向です。
長く住み続けることができる環境づくり	要見直し	UIターン世帯の5年定着率が計画当初をわずかに下回り、村に住み続けたいと思う人の割合も継続して減少傾向にあります。
空き家対策の推進	非常に良い	村内の空き家率、対策を行った空き家数ともに目標を上回っています。
地域の消防・防災力の向上	要見直し	自主防災活動を行った組織数がR3年度からR6年度まで一貫して0組織/年となっています。
ごみの減量化とリサイクルの推進	横ばい	不法投棄件数は低い水準で維持していますが、資源ごみ回収量が減少傾向にあります。

## 協働・行政

施策	区分	状況
あらゆる主体の参画・連携により地域を支える	要見直し	地域づくり活動登録団体数（自治会はカウントしない）は0団体となっています。
持続可能な行政事務の実施	要見直し	職員の研修参加者数は「良好」なものの、村職員離職率がR4年度以降継続的に悪化しR6年度は37.0%となっています。
持続可能な公共財管理と財政運営	要注意	実質公債費比率は健全ですが、経常収支比率がR4年度以降継続的に悪化し、財政の硬直化が進んでいます。
いつでもどこでもだれでもつながる	要注意	電子申請実施業務数は「良好」ですが、BPR（業務プロセスの見直し）実施業務数はR3年度から全く進展がありません。
取り残されそうな領域をほっとかない	要見直し	会議委員等における男女比率の公開件数がR3年度からR6年度まで0件のまま推移しています。

## 2、R6村民アンケート結果

# 1、住民の幸福度

## ✓ 幸福度は上昇傾向にあり、国・県平均より高くなっています。

「とても幸せを10点、とても不幸せを0点」としてお聞きすると、令和6年度は平均点が7.1点になりました。令和3年度から経年比較すると、上昇傾向にあると言えます。

併せて、デジタル庁の委託事業で実施された調査では、令和6年度「国：6.5点、岡山県：6.5点」となっており、西栗倉村の方が高くなっています。

西栗倉村幸福度平均点			
R3	R4	R5	R6
6.5点	6.7点	7.0点	7.1点

## ✓ 39歳以下の幸福度が高くなっています。

年代別に見ると、39歳以下の方の平均が7.4点と他の年代より高くなっています。

## ✓ 5年後の幸福度は年代によって傾向が異なっています。

5年後の幸福度について、「あなたは5年後どの程度幸せですか」とお聞きすると、39歳以下は5年後の方が高く、40～64歳はあまり変わらない、65歳以上は5年後の方が低くなっています。

年代別の幸福度 (R6)				
区分	全体	～39歳	40～64歳	65歳～
現在	7.1点	7.4点	7.0点	7.1点
5年後	6.8点	8.0点	7.1点	6.4点

## ✓ 幸福感を判断するのに最も重要なのは「健康状況」となっています。

「幸福感を判断する際に重視した点は何ですか」とお聞きすると、4人に3人以上が「健康状況」、半数以上が「家族関係・家計・自由な時間」と回答しています。

## ✓ 幸福感の判断基準が変化しています。

幸福感を判断するための要素として、ここ4年間で「健康・家計・友人・自由な時間」が10%以上上昇しています。家計は近年の物価高等の影響、友人・自由な時間はプライベートを充実させたいという思いが高まっているものと考えられます。

幸福度を判断するに重視した要素			
項目	R6結果	R3→R6の変化	
家計の状況（所得や消費）	59.8%	12.7%	↑
就業の状況（仕事の有無や安定）	24.8%	5.2%	↔
健康状況	76.4%	13.6%	↑
自由な時間や充実した余暇	53.4%	10.2%	↑
仕事のやりがい	27.9%	1.2%	→
社会貢献	12.9%	3.5%	→
家族関係	60.7%	8.3%	↔
友人関係	39.9%	10.3%	↑
職場の人間関係	17.2%	2.5%	→
地域コミュニティとの関係	23.9%	6.6%	↔

## 2、村の取組の認知度等

### ✓ 「生きるを楽しむ」への共感度は、ほぼ横ばいの傾向となっています。

西栗倉村の掲げる「生きるを楽しむ」のキャッチコピーへの共感度をお聞きすると、令和6年度は全体の3分の2の方が共感している（やや共感も含む）結果となりました。

また年代別では、39歳以下の共感度が高くなっています。

「生きるを楽しむ」への共感度			
R3	R4	R5	R6
64.3%	69.1%	67.9%	66.6%
R6年代別	～39歳	40～64歳	65歳～
	83.0%	72.2%	59.3%

### ✓ SDGsの認知度は8割以上となっています。

「SDGsという言葉聞いたことがありますか」とお聞きすると、8割以上の方があと回答しています。

SDGsの認知度		
R4	R5	R6
79.6%	83.2%	83.1%

### ✓ 村の取組への認知度は全体として高まっています。

村の取組について「聞いたことがある・内容も知っている」とお答え頂いた方は、この5年間で全ての取組において増えており、全体的に認知度が高まっていると言えます。

### ✓ 村の取組への理解度は、取組によって状況が異なります。

村の取組についての理解度（内容も知っているとお答えした方）は、「あわポ・アプリ村民票」が向上しています。

一方で、「ローカルベンチャー育成・環境モデル都市構想・百年の森林構想」などは、この5年間で認知度はある程度高まったが理解度はほとんど変わっていない結果となっています。

各種取組への認知度・理解度			
項目		R6結果	R2→R6の変化
百年の森林構想の取り組み	認知度	90.3%	5.2% ↗
	理解度	45.8%	1.6% →
環境モデル都市構想の取り組み (木質バイオマス循環事業・小水力発電事業など)	認知度	83.0%	6.4% ↗
	理解度	34.1%	0.4% →
ローカルベンチャー育成の取り組み	認知度	69.5%	11.4% ↑
	理解度	25.2%	▲1.3% →
SDGs未来都市認知度画の取り組み	認知度	73.5%	21.5% ↑
	理解度	24.0%	3.9% →
西栗倉アプリ村民票	認知度	62.6%	26.9% ↑
	理解度	26.7%	10.5% ↑
あわポ（あわくらポイントサービス）	認知度	91.4%	19.4% ↑
	理解度	59.0%	18.4% ↑
一般財団法人西栗倉むらまるごと研究所の取り組み	認知度	67.2%	25.6% ↑
	理解度	20.4%	6.3% ↗
一般社団法人Nest（ネスト）の取り組み	認知度	54.5%	17.0% ↑
	理解度	24.0%	6.7% ↗
百森留学の取り組み	認知度	51.7%	14.8% ↑
	理解度	13.8%	3.6% →

### 3、生活における満足度

✓ 全体的な生活における満足度はほぼ横ばいとなっています。

村での生活に関わる各項目の満足度（大変満足・満足）をお聞きすると、全27項目中、やや上昇：1項目、ほぼ横ばい：23項目、やや低下：2項目、低下：1項目と、全体としてみるとほぼ横ばいの状況になっています。

✓ 満足度が高いのはインフラ関係となっています。

満足度が高い項目は、「上水道の整備、下水・ごみ・し尿の処理、幹線道路や生活道路の整備」となっており、インフラに関係する項目が高くなっています。

✓ 村内資源が乏しい項目の満足度が低くなっています。

特に満足度が低い項目は、「高校への通いやすさ・身近に購入できる買い物の便利さ」など、村内に当該資源がない・他市町村と比較して乏しい項目となっています。また、「保育環境や子供の遊び場の充実度」はここ5年間で満足度が低下しています。

満足度の変化：凡例	
↑	上昇
↗	やや上昇
→	ほぼ横ばい
↘	やや低下
↓	低下

生活における満足度（その①）			
項目	R2→R6の変化	R6結果	
幹線道路や生活道路の整備状況	0.2 %	→	65.5%
上水道（簡易水道）の整備状況	3.0 %	→	81.1%
下水・ごみ・し尿の処理	2.9 %	→	77.5%
集会所などの整備状況	▲ 3.8 %	→	47.4%
病院などの保健・医療・福祉施設の整備状況	▲ 3.7 %	→	33.3%
休日・夜間の救急医療体制	0.4 %	→	16.3%
福祉サービス（在宅福祉など）の状況	▲ 2.2 %	→	22.5%
地域の福祉（介護分野・障害分野）のサービス	1.1 %	→	24.0%
地域の産前産後サポート・育児支援サービス	4.1 %	→	22.7%
地域における健康づくりの取組	3.0 %	→	34.4%
行政の情報提供の充実度	▲ 2.4 %	→	33.2%
小中学校への通いやすさ	▲ 3.7 %	→	36.6%
高校への通いやすさ	▲ 4.0 %	→	1.9%
保育環境や子どもの遊び場の充実度	▲ 10.7 %	↓	18.4%

生活における満足度（その②）			
項目	R2→R6の変化	R6結果	
教育環境（特色のある学校教育等）の充実度	▲ 6.9 %	↘	15.4%
子育てに対する地域の協力	▲ 3.1 %	→	22.6%
鉄道やバスなどの公共交通の利便性	▲ 0.7 %	→	17.3%
インターネットなどの情報通信環境	1.8 %	→	37.0%
携帯電話の通信状況	1.5 %	→	52.9%
デジタル機器を活用したサービスの整備状況	0.4 %	→	19.4%
身近に購入できる買い物の便利さ	▲ 5.4 %	↘	6.7%
スポーツ・レクリエーション施設の整備状況	0.8 %	→	11.6%
芸術・文化に触れる機会	3.1 %	→	12.1%
自然環境の保全状況	9.2 %	↗	36.2%
伝統文化や祭り等の地域文化の保存状況	2.1 %	→	26.6%
洪水・土砂災害等の災害に対する安全性	▲ 1.0 %	→	17.5%
生活費の状況	▲ 0.5 %	→	15.7%

※一部の項目はR4→R6を比較しています。

## 4、定住に関する意向

✓定住意向のある方は約7割でほぼ横ばいの傾向となっています。

「あなたは西粟倉村にこれからも住み続けたいですか」とお聞きすると、約半数の方が「ずっと住み続けたい」と回答しています。

また、「ずっと住み続けたい・当分は住んでいたい」という定住意向のある方は、7割程度で推移しています。

✓39歳以下の定住意向は約4割となっています。

定住意向を年代別に見ると、39歳以下の割合が約4割と低くなっており、「ずっと住み続けたい」に限ると14.9%となっています。

また、39歳以下では「近いうちに村外へ移る予定がある」の割合も高くなっています。

定住に関する意向（経年比較）				
選択肢	R3	R4	R5	R6
できる限りずっと住み続けたい	50.5%	54.6%	46.0%	48.9%
当分は住んでいたい	17.3%	17.5%	23.2%	17.5%
しばらくは住むつもりだが将来は転出をしたい	5.5%	4.1%	10.9%	7.9%
西粟倉村外に移りたいが具体的な計画はない	5.5%	4.1%	5.6%	4.8%
近いうちに西粟倉村外へ移る予定がある	2.9%	0.4%	1.3%	2.7%
よくわからない	7.3%	10.0%	5.6%	9.7%
考えたことがない	6.0%	7.1%	7.3%	8.5%

定住に関する意向（R6年代別）				
選択肢	全体	～39歳	40～64歳	65歳～
できる限りずっと住み続けたい	48.9%	14.9%	39.8%	64.7%
当分は住んでいたい	17.5%	25.5%	26.5%	9.4%
しばらくは住むつもりだが将来は転出をしたい	7.9%	17.0%	8.2%	4.7%
西粟倉村外に移りたいが具体的な計画はない	4.8%	4.3%	6.1%	4.1%
近いうちに西粟倉村外へ移る予定がある	2.7%	17.0%	1.0%	0.0%
よくわからない	9.7%	19.1%	10.2%	7.1%
考えたことがない	8.5%	2.1%	8.2%	10.0%

# 3、将来の人口について

# 1、現状の整理（これまでの人口推計）

現行の人口ビジョンは、「2030年・1,300人」と設定していますが、ほぼ達成不可能な状況です。

（岡山県毎月流動人口調査における2025年6月の西栗倉村人口＝1,267人）

その中身は、普段の転入出状況に加えて毎年10名以上（男女5名以上）の転入超過を見込んだ推計となっています。（補足：全国的にもっと無茶な設定をしている自治体が大半です。）

一方で、R5社人研推計は、現行人口ビジョンのベースとなるH31推計より上向きの推計となっています。

ですが、これは2015～2020年の実績による推計なので、2020年以降も同じ状況であれば現実的な推計となります。これからそれを分析・検証して、現実的にどう動いていくのかを推計します。

		2020年	2030年	2040年	2050年
現行人口ビジョン		1,421	1,293	1,207	1,134
<b>H31社人研推計</b>		1,379	1,209	<b>1,066</b>	-
<b>R5 社人研 推計</b>	総人口	1,398	1,238	<b>1,132</b>	1,040
	0～14歳	12.7%	12.2%	13.0%	13.2%
	15～64歳	51.9%	51.8%	52.3%	51.2%
	65歳以上	35.4%	36.0%	34.7%	35.7%

## 2、転入出の状況

次に近年の転入出状況を見てみると、人口推計の元となるR5社人研推計の基礎数値となる2015～2019年より直近の2020～2024年の方が状況は悪くなっています。

また、特に人口推計において人口増減の大きな要因となる若い女性を見ると、10～40代いずれも状況は悪くなっています。

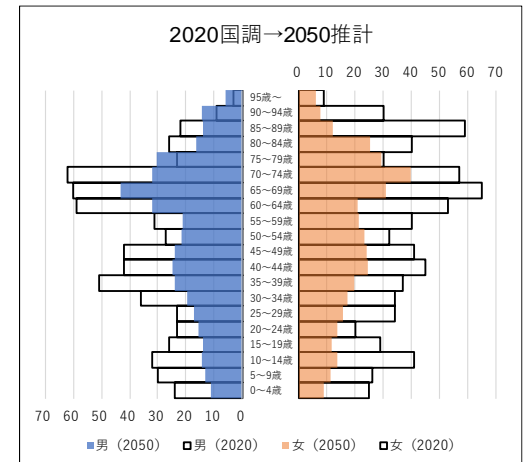
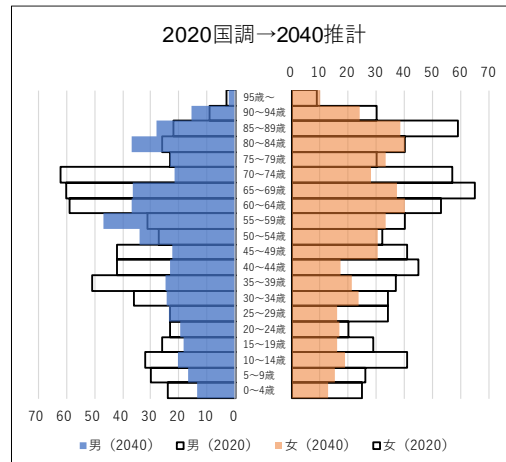
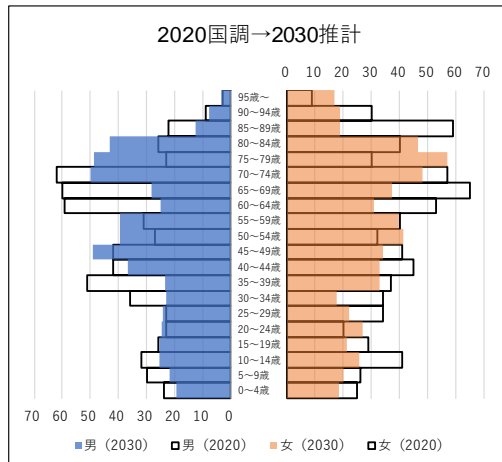
【転入出状況（プラス＝転入超過、マイナス＝転出超過）】資料：住民基本台帳移動報告

	男性								女性							
	計	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
2015～2019平均	1.2	▲0.2	▲1.0	▲1.2	4.8	▲1.2	▲0.6	▲0.8	▲0.4	0.6	▲0.8	▲2.2	2.0	0.8	▲0.6	▲2.8
2020～2024平均	1.0	1.2	0.0	▲0.2	1.2	1.0	▲0.8	▲0.8	▲7.0	0.0	▲1.2	▲3.0	0.4	▲1.4	0.0	▲2.0
2015	1	0	4	0	5	0	▲3	▲3	0	6	▲3	▲5	3	0	▲3	▲3
2016	▲7	0	▲5	▲5	3	▲2	0	0	▲5	0	▲1	2	▲2	▲4	0	▲3
2017	16	3	0	0	13	1	0	0	9	5	0	▲1	2	0	0	0
2018	▲7	▲3	▲4	▲5	3	▲4	0	0	▲9	▲6	0	▲10	4	4	0	▲4
2019	3	▲1	0	4	0	▲1	0	▲1	3	▲2	0	3	3	4	0	▲4
2020	▲7	0	0	1	▲1	▲2	0	▲4	▲4	0	0	▲4	1	1	0	0
2021	5	7	0	▲1	3	▲4	0	0	▲12	0	▲3	▲3	▲5	▲4	0	4
2022	4	▲4	5	6	▲1	3	▲4	0	▲13	0	0	▲4	▲2	0	0	▲9
2023	▲6	3	▲5	▲6	0	2	0	0	▲6	0	▲3	1	0	▲4	▲3	3
2024	9	0	0	▲1	5	6	0	0	0	0	0	▲5	8	0	3	▲8

### 3、社人研推計及び直近の状況を踏まえた推計値

社人研推計及び直近（2020～2024）の状況を踏まえて推計を行うと次のとおりとなります。

		2020年	2025年	2030年	2040年	2050年	補足
社人研推計		1,398	1,306	1,238	1,132	1,040	合計特殊出生率：1.62～1.73で推計
直近を 踏まえた 推計	総人口	<b>1,398</b>	<b>1,275</b>	<b>1,177</b>	<b>993</b>	<b>817</b>	合計特殊出生率：1.47 (H30～R4平均)
	0～14歳	12.7%	11.7%	11.1%	9.9%	9.1%	
	15～64歳	51.9%	51.1%	51.8%	52.3%	48.9%	
	65歳以上	35.4%	37.2%	37.1%	37.9%	42.0%	
	子ども1学年あたり	12人	<b>10人</b>	9人	7人	<b>5人</b>	
	若年女性減少率 (2020年と比較して)	—	-12.6%	-20.6%	-37.7%	-56.0%	消滅可能性自治体 = 50%以上減少



## 4、周辺自治体との比較

ここで、周辺自治体との比較を行いたいと思います。これまで西栗倉村は、周辺自治体より人口減少が抑えられているという説明をする場面が多くありました。

一方、直近の状況を踏まえた推計と周辺自治体の推計を比較すると、人口減少のスピードはほとんど同じ状況となります。なお、子育て支援施策で全国的に注目されている奈義町も人口減少の推計では周辺自治体と同様の状況と推計されています。

自治体	項目	2020年	2025年	2030年	2040年	2050年
岡山県	社人研推計	1,888,432	1,832,201	1,774,408	1,646,360	1,510,460
	対2020年比人口	-	97.0%	94.0%	87.2%	80.0%
西栗倉村	社人研推計	1,398	1,275	1,238	1,132	1,040
	対2020年比人口	-	<b>91.2%</b>	<b>88.6%</b>	<b>81.0%</b>	<b>74.4%</b>
	直近を踏まえた 独自推計	1,398	1,275	1,177	993	817
	対2020年比人口	-	<b>91.2%</b>	<b>84.2%</b>	<b>71.0%</b>	<b>58.4%</b>
美作市	社人研推計	25,939	23,831	21,839	18,234	14,927
	対2020年比人口	-	<b>91.9%</b>	<b>84.2%</b>	<b>70.3%</b>	<b>57.5%</b>
奈義町	社人研推計	5,578	5,253	4,930	4,285	3,687
	対2020年比人口	-	<b>94.2%</b>	<b>88.4%</b>	<b>76.8%</b>	<b>66.1%</b>
新庄村	社人研推計	813	752	693	604	540
	対2020年比人口	-	<b>92.5%</b>	<b>85.2%</b>	<b>74.3%</b>	<b>66.4%</b>

## 5、人口目標（案）

厳しい現状の中でこういった目標を立て、目標達成のために行動するのか。を考えるために一つの指標となる目標値の推計を行いました。

この推計では**現状（2020～2024）の傾向に加える形で**以下の内容を達成する必要があります。

- ・ **男性：20・30代で確実に毎年2名ずつ社会増**（転入－転出＝2名）
- ・ **女性：20・30代で確実に毎年3名ずつ社会増**

※出生率は、全国の自治体が伸び悩んでいる状況のため推計においては現状維持とします。

【目標値（社会増の補正を行った推計値）】

		2020年	2025年	2030年	2040年	2050年
<b>現状のまま推移</b> 直近を踏まえた独自推計		1,398	1,275	1,177	993	817
<b>目標値</b> 補正を 加えた 推計	総人口	<b>1,398</b>	<b>1,275</b>	<b>1,209</b>	<b>1,100</b>	<b>1,004</b>
	0～14歳	12.7%	11.7%	11.2%	11.4%	12.1%
	15～64歳	51.9%	51.1%	52.7%	54.4%	53.7%
	65歳以上	35.4%	37.2%	36.1%	34.2%	34.1%
	子ども1学年あたり	12人	<b>10人</b>	9人	8人	<b>8人</b>
	若年女性減少率 (2020年と比較して)	－	-12.6%	-7.0%	-5.3%	-18.8%

# 4、後期計画策定に向け

# はじめに：総合計画について

## (1) 総合計画とは？

### ①西栗倉村がどのような将来を目指すのか、その将来のために何をするのか、を定める計画となります。

【村条例から】総合振興計画は、目指すべき将来像を定める基本構想、これを実現するための事業を定める基本計画と事業の進め方を明らかにする実行計画により構成する。

### ②全体の方向性を決める村の最上位計画です。

【村条例】村の政策を定める最上位の計画であり、村が行う政策は、緊急を要するもののほかは、これに基づくものとする。

## (2) どのような内容があるのか

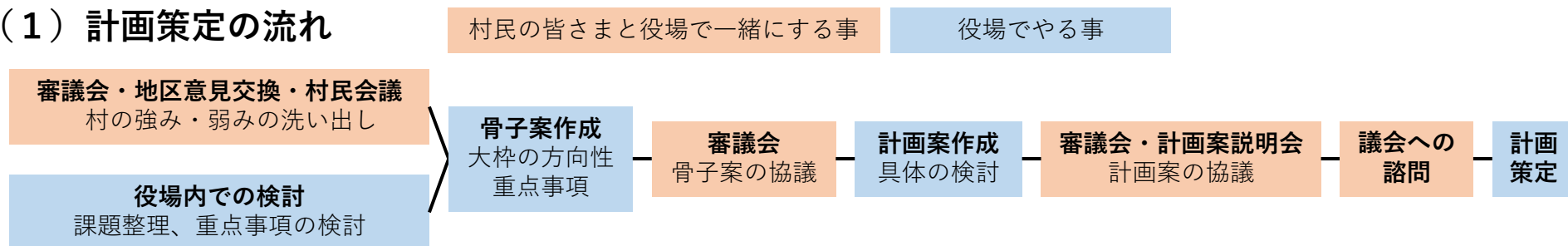
基本構想	村の将来像、人口ビジョンなど				
基本計画	分野ごとの取組む内容				
	第1章 保健・医療・福祉	第2章 教育・文化	第3章 産業	第4章 生活環境・基盤整備	第5章 協働・行政

## (3) 計画の期間

R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
基本構想（10年間）									
前期基本計画（5年間）					後期基本計画（5年間）				

# 1、計画策定の流れ

## (1) 計画策定の流れ



## (2) 年間スケジュール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
策定プロセス	現状整理	施策整理	重点施策検討	骨子案	具体施策検討	計画案	計画策定
イベント	第1回審議会	地区意見交換	村民会議 子ども村民会議 地区意見交換	第2回審議会 地区意見交換		第3回審議会 計画案説明会	

## (3) 各イベントの概要

- ①地区別意見交換会【9月下旬～】
- ②村民会議【11月16日（日）予定】
- ③子ども村民会議【11月15日（土）予定】

村の強み（良さ）や弱み（課題）を皆さんと役場で改めて共有して、次の5年の取組を考えていきたい。  
そのために、職員が各地区に出向いたり、皆さんと一緒に村の事を話す場を作ったりすることを企画しています。

- ④住民向け計画案説明会【2月開催予定】：計画案について意見を頂いたり、各施策のプレイヤーとなる皆さんと共通認識を持つ場にしたいと考えています。

## 2、計画策定のコンセプト

### (1) 計画策定にあたっての村の考え

#### ①優先順位付け

限られた職員数、村民の中で全てのことに力を入れて取組むのは難しい状況にあります。

そのため、「伸ばすこと」と「維持すること」として整理し各施策・事業の検討を進めていく予定としております。

#### ②目標値の見直し

各施策における目標値について、「伸ばすこと」に対して設定することを想定しており、現状の目標値は見直しを行います。

また、目標の設定に当たっては、それぞれの取組状況を図るための指標（KPI：プロセス）と目指すべき指標（KGI：ゴール）に分けて、進捗をきちんと測りながら計画を進めることが出来るようにします。

## 2、計画策定のコンセプト

### (2) むらの未来像

**生きるを楽しむ 百年の森林に育まれた村**  
(基本構想に記載している概念を継続します)

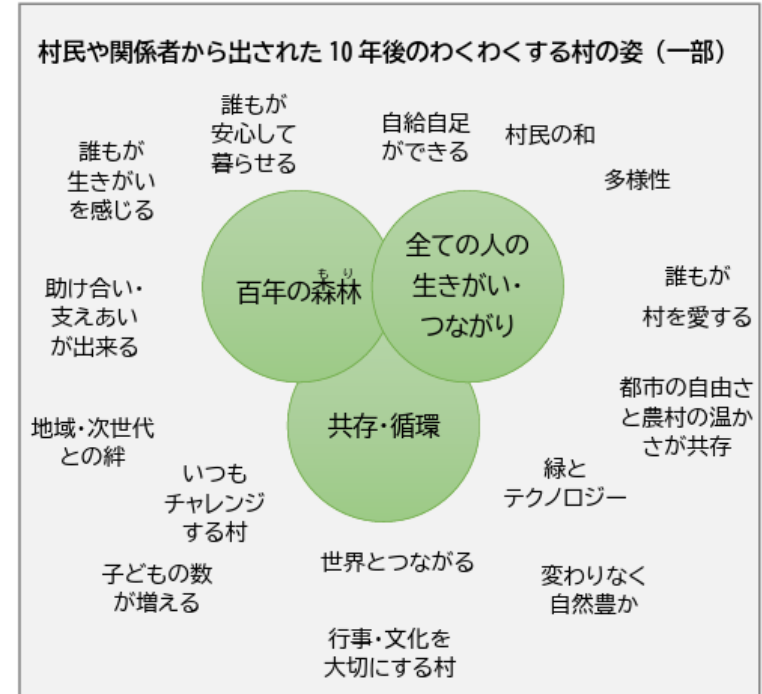
### (3) 優先して取組むこと

#### 人口減少対策

【例えばこういった観点で施策を考えていきます】

- ・ 産業基盤の強化
- ・ 挑戦を応援する環境づくり
- ・ 既存施策の連動
- ・ 移住希望者のコーディネート
- ・ 村民の生活サポート
- ...

### 現行計画における村の姿のイメージ



# 村民意見交換会 皆さまからの意見



9月11日	10月15日	10月17日	10月22日	10月24日	10月27日	10月28日	10月31日	11月5日	11月6日	11月7日	11月12日	11月14日	11月15日	11月16日
審議会	知社	引谷	大茅	谷口	塩谷	筏津	猪之部	別府	坂根	影石	下土居	中土居	子ども 村民会議	村民会議

<b>強み・弱みについてお考え頂いた方</b> (審議会、地区意見交換会、子ども村民会議、村民会議)	<b>1 3 6</b> 人
<b>延べ意見数</b> (強み・弱み合わせて)	<b>1, 4 7 4</b> 意見
<b>強み・弱み割合</b>	強み： <b>4 9. 1</b> % 弱み： <b>5 0. 9</b> %





# 後期計画の施策体制案

## 西栗倉村第6次総合振興計画後期基本計画 施策体系案

### ビジョン(Vision) 生きるを楽しむ 百年の森林に育まれた村

【攻めの施策】 (=人口減少対策を積極的に推進する施策)			【守りの施策(土台)】 (=全ての活動を支える持続可能な基盤)
<p><b>【柱1：しごと】</b></p> <p>「しごと」は、人が村に住み続け、新たな活力を呼び込むための原動力です。これまで培った林業の基盤を維持・発展させるとともに、ローカルベンチャーの育成や村外企業との連携を深めることで、多様な雇用と挑戦の場を広げます。</p> <p>併せて、施設整備やデジタル活用による観光振興も並行し、仕事の選択肢を増やすことで活力ある「挑戦の村」を続けていきます。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基幹産業への支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>林業・木材産業振興</li> <li>農業振興</li> </ol> </li> <li>事業の創出と拡大             <ol style="list-style-type: none"> <li>起業・社内ベンチャー支援</li> <li>事業拡大支援・村外企業との連携</li> </ol> </li> <li>観光と交流の促進             <ol style="list-style-type: none"> <li>観光振興</li> <li>関係人口の創出・拡大</li> <li>村製品の販路拡大</li> </ol> </li> </ol>	<p><b>【柱2：ライフスタイル】</b></p> <p>「生きるを楽しむ・上質な田舎」といった西栗倉村らしい豊かな暮らしを支えるため、日々の生活の基盤となる子育てや住まいへの支援に注力します。</p> <p>また、「暮らし」ではなく「ライフスタイル」としているのは、自然もあり多様な人材がいる村の特徴を活かして、健康づくり・スポーツ・文化といった、生活に豊かさをもたらす生涯にわたる学びの環境を提供したいという思いからきています。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子育て支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>経済的支援の充実</li> <li>サービスの充実</li> </ol> </li> <li>多様な住まいの確保             <ol style="list-style-type: none"> <li>住宅の確保</li> <li>空き家利活用</li> </ol> </li> <li>生涯学習             <ol style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の推進</li> <li>健康づくり・スポーツ・文化振興</li> </ol> </li> </ol>	<p><b>【柱3：未来への投資】</b></p> <p>西栗倉が対外的に注目をされてきたのは、村の特徴を活かしつつ先進事例となる内容に早くから投資を行ってきたことが一つの要因と考えています。</p> <p>これからも持続可能な西栗倉村を形作るため、人・教育という村の基盤に加えて、村の特色となる再生可能エネルギーや生物多様性といった先進事例となるコンテンツに投資をしていきます。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>IU ターン促進・村のPR             <ol style="list-style-type: none"> <li>移住促進</li> <li>シティプロモーション推進</li> <li>U ターン促進</li> </ol> </li> <li>脱炭素・生物多様性保全             <ol style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの導入・活用</li> <li>生物多様性保全→産業</li> </ol> </li> <li>教育・保育             <ol style="list-style-type: none"> <li>西栗倉一貫教育の推進</li> <li>対外的な魅力発信</li> </ol> </li> </ol>	<p>攻めの施策を支える土台として、日々の暮らしを守る「村を支える基盤」を維持していくことは欠かせません。</p> <p>そのために、未病を含む統合健康管理や、災害時に孤立しないための防災体制を構築し、老朽化するインフラの計画的な更新を進めるとともに、将来にわたって村を支えるために、健全な財政運営と効率的な行政組織運営を行います。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康・福祉             <ol style="list-style-type: none"> <li>医療・介護</li> <li>共生社会</li> </ol> </li> <li>地域基盤             <ol style="list-style-type: none"> <li>防災・消防</li> <li>インフラ・交通</li> <li>地域コミュニティ</li> </ol> </li> <li>持続可能な行政経営             <ol style="list-style-type: none"> <li>持続可能な財政運営</li> <li>行政組織運営</li> </ol> </li> </ol>

## 令和7年度 西栗倉村総合戦略有識者会議（書面開催）意見照会結果

### ■産業施策「ローカルベンチャー」について

ローカルベンチャー企業の売上合計などもかつての勢いが維持できなくなっているように見えます。私自身は村内の経営者の一人として、これは再構築のフェーズに入っているのではないかと捉えています。これまでに醸成してきた挑戦と応援の文化は保持しつつも、新たなビジョンや戦略を描きなおしていく必要があるように感じています。

### ■（資料2）「デジタル田園都市国家構想交付金に関連した KPI の進捗状況」について

KPIのうち、「宿泊交流施設の延べ利用者数」について、R6の目標値に対する実績値が極端に低いので、原因（目標値が高すぎることも含めて）を探るとともに、抜本的な対策を進める必要があると思います。

### ■（資料3）「第6次西栗倉村総合振興計画 指標進捗一覧」について

R7 中間目標値に対する R6 実績値について、数値が良好に推移している施策がある一方で、特に、「がん検診受診率」、「病院などの保険・医療・福祉の整備状況の不満足度」などの住民の健康・福祉に係る数値のほか、「主要観光施設の年間観光客数」など産業に係る数値や、「鉄道やバスなどの公共交通の利便性の不満足度」など住民生活に係る数値が悪い方で推移しています。

資料「西栗倉村第6次総合振興計画後期計画策定について」の「前期計画の進捗」の項において、数値の課題は評価されていますが、それを踏まえた具体的な施策の戦略的な展開が望まれると思います。

### ■前期計画の進捗状況について

全体的にあまり芳しくないため、早急に対策を検討すべきである。特に、医療体制や学校教育に対する不満足度が高いこと、それとの関連もあると思うが、村に住み続けたい住民が減少していること、さらに村役場職員の離職率が悪化傾向にあり、R6年度は37%という結果はかなりショックである。

■ 10代から40代の女性の転出が急増していることについて

地域振興政策を評価する際の重要なメルクマールであり、早急に対策を検討する必要がある。

■ 優先して取り組むことに「人口減少対策」があることについて

「人口減少対策」は確かに重要であり人口増加を諦めてはいけませんが、その成果が出るのは長期的に考える必要がある。より大事なことは、今、西粟倉村に住んでいる人々の生活環境の満足度を維持することであり、「人口減少を前提とした地域づくり」を地域政策として検討する必要がある。

■ テキストマイニング「意見の傾向 強み」の中で、「交通」が拡大表示されていました。「交通」が西粟倉村の強みとなっている理由は何でしょうか？

答：西粟倉村は古く因幡街道筋に位置したことから、関西～山陰方面にかけて、智頭急行や姫路鳥取道など交通が整備されており、他の中山間地域と比べて一次交通面での利便性が高い。隣県ではあるが鳥取空港からも近く、そうした意味合いでの「強み」と捉えている。